

健全化判断比率・資金不足比率を公表します

令和2年度決算における健全化判断比率および資金不足比率は、全て早期健全化基準を下回っています。

これからも健全財政を推進するための取り組み方針に沿って借金を極力抑制し、健全な財政運営に努めてまいります。

■健全化判断比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項の規定により、健全化判断比率を次のとおり公表します。

(単位：%)

年度	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
令和2年度	発生していません	発生していません	7.7	発生していません
早期健全化基準	12.13	17.13	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	基準なし

令和元年度	発生していません	発生していません	9.2	5.8
平成30年度	発生していません	発生していません	10.6	6.4
平成29年度	発生していません	発生していません	10.5	12.9

※詳細は別紙資料をご参照ください。

■資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定により、資金不足比率を次のとおり公表します。

(単位：%)

特別会計の名称	資金不足比率
水道事業会計	— (20.0)
下水道事業会計	— (20.0)
病院事業会計	— (20.0)

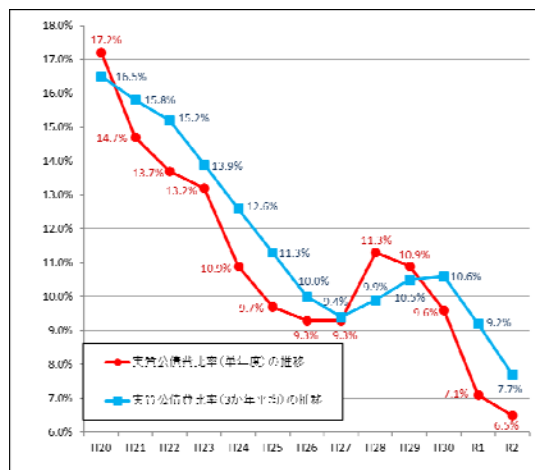
() 内の数値は、経営健全化基準を示す。

お問い合わせ先

総務部 財政課 財政係 担当者：西尾
電話：0573-66-1111 (内線432)

1 実質公債費比率は1.5ポイント下がりました

- 令和2年度の実質公債費比率は **7.7%** (H30～R2の平均) となり、前年度の **9.2%** から **1.5ポイント** 下がりました。
- これは、平成18年度に策定した「**公債費負担適正化計画**」に基づき、**借金返済額を長期的にコントロール**してきた結果、一般会計の元利償還金を平成29年度と比較し **5.3億円**、公営企業会計の準元利償還金を **6.4億円削減**できたことが主な要因です。



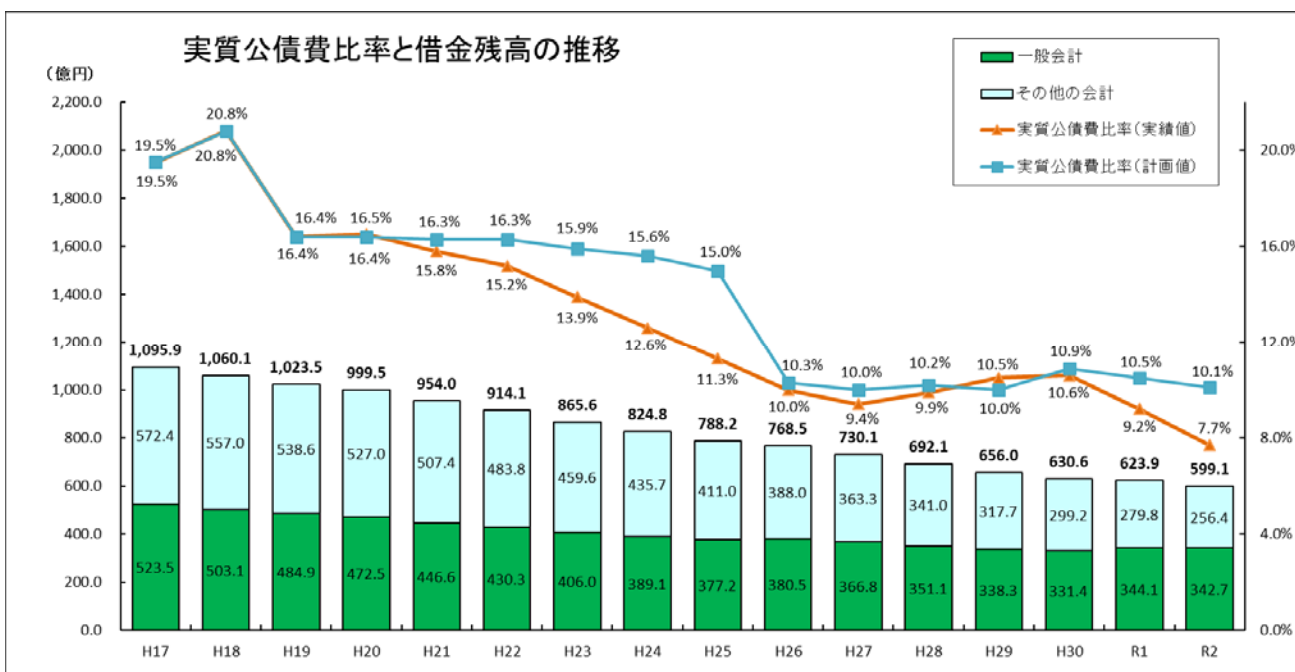
2 将来負担比率は発生していません

- **将来負担比率は発生せず、前年度の5.8%から皆減となりました。**
令和2年度末の借金残高は **599.1億円** となり、令和元年度末の残高 **623.9億円** から **24.8億円減少**しました。一般会計とその他の会計合わせて **24.8億円の減少**となっておりますが、リニア関連事業や中期事業実施計画に掲げる事業に対し、合併特例債を令和6年度まで積極的に活用する必要があり、借入残高は増加する見込みです。
中津川市総合計画 中期事業実施計画における投資の重要性を考慮し、計画期間内の着実な事業実施に重心を置かなかで、**地方債発行額を年度ごとに適切にコントロールし、公債費の状況を注視**していきます。

3 公債費負担適正化計画と借金残高の比較

(単位：億円)

区分	会計	R1 末残高	R2 末残高	比較
計画	一般会計	342.0	341.4	△0.6
	その他の会計	287.2	286.0	△1.2
	合計	629.2	627.4	△1.8
実績	一般会計	344.1	342.7	△1.4
	その他の会計	279.8	256.4	△23.4
	合計	623.9	599.1	△24.8
比較	一般会計	2.1	1.3	—
	その他の会計	△7.4	△29.6	—
	合計	△5.3	△28.3	—



※実質公債費比率の計画値は、平成30年度に見直しを行っています。